ら四十歳までの四十五人である。四十五歳未滿の四十人、五十歳未滿の四十一人等から見ても、大體に於いて三十歳から五十歳までの所であることがわかる。

掃除婦の年齢	總數		
二一歳——二五歳	二三一	三六歳——四〇歳	四五
二六——三〇	一五	四一——四五	四〇
三一——三五	一六	四六——五〇	四一
	三八	五〇以上	三六

二　配偶關係と子供數——職業婦人は大體に於いて未婚者が多いわけであるが、掃除婦に於いては年齢から見ても想像はつく通り既婚者が多いのである。未婚者は僅かに十四名であるのに對して、既婚者は二百十一名である。既婚者を更に分けて見ると、有夫者は百三十二名で一番多いが、死別者がその約半分、生別者は僅かに十二名といふことになつてゐる。

次に子供數を調べて見よう。

まづ子供の有る者と無いものとを比較して見るに、子供の無いもの八十名に對して、子供の有るものは百四十四名に上る。

更に子供數を見るに、一人のものが一番多くて五十四名、その次が二人の四十六名、三人以上になるとグッと少くなる。流石に六人以上といふのはない。

雜役婦と女工には、子供七人を抱えたものが一人づゝあつた。

次に、配偶關係と子供數とを一覽してみよう。

掃除婦の配偶關係と子供數	總數	無子者	有子者總數	子供數一人	二人	三人	四人	五人	六人
總數	二二四	八〇	一四四	五四	四六	二一	一五	六	二
未婚者	一四	一四	—	—	—	—	—	—	—
有夫者	一三二	五〇	八二	四〇	二七	七	四	三	一
生別者	一二	六	六	三	一	二	—	—	—
死別者	六六	一〇	五六	一一	一八	一二	一一	三	一

三　就職の方法——掃除婦となつて働きに出る目的は、殆んど家計補助であるが、それ以外には子女の養育と自活又は貯蓄等である。いかにも地味なことである。

更に就職の方法の種類を一瞥して見よう。すなはち、總數二百十九人の中、親戚知人の紹介によるもの二百八人、職業紹介所の七人、直接面談の三人、募集廣告の一人である。

これによつて見ると、殆んど大部分のものが親戚知人の紹介である。

四　就業時間——掃除婦の就業時間を調べて見るに、八時間から十時間までが一番多いのであつて、これは他に比して大體同じである。即ち總數二百二十八人中八時間以上十時間迄が百五十八人、六時間以上八時間迄が五十四人、十時間

以上十二時間迄が十二人、十二時間以上が三人、六時間以下が一人と云ふ順序になつてゐる。

五　給料・手當――掃除婦の一人當り平均額三十四圓五十七錢といふのは、他の業務に比して仲々良い方である。業務の性質が地味なものではあるが、それだけまた相當の報酬が得られるといふわけである。

掃除婦の給料

總數	二二六		四五圓以下	八
二〇圓以下	一三		五〇〃	一〇
二五〃	二七		五五〃	一
三〇〃	六四		六〇〃	三
三五〃	六二		七〇〃	一
四〇〃	三七			

これを以て見ると、二十五圓から三十五圓に懸かるところが比較的に多い。これは他の業務に比して、決して少い方ではない。

更に、一人當り平均額を他の主なる業務と比較して見よう。

一人當平均給料比較

	圓		圓
タイピスト	三五・七五	店員	二八・九一
掃除婦	三四・五七	車掌	二八・六九
事務員	三四・二二	女工	二七・九〇
製圖手	三四・〇二	給仕	二一・九五

次に手當について見るに、手當の無いものゝ方が多くて百二十九人、それに對して手當の有るものは八十三人である。この中で一番多いのは三圓以下である。

掃除婦の手當

總數	八三		七圓以下	七
一圓以下	一二		一〇〃	一
三〃	三四		一五〃	一
五〃	二六		二〇〃	二

次に、給料、手當等を入れたる收入總額を見よう。

掃除婦の收入總額

總數	二一五		二五圓以下	一五
二〇圓以下	四			

三〇圓以下	二九	六〇圓以下	四
三五〃	三七	六五〃	六
四〇〃	五五	七〇〃	二
四五〃	三四	七五〃	一
五〇〃	一五	八〇〃	三
五五〃	九	八五〃	一

六　初任給――更に參考のために、掃除婦の初任給を調べて見るに、二十六圓以上三十圓以下といふのが一番多い。

掃除婦の初任給			
總數	二三七	三一――三五	三一
二〇圓以下	一九	三六――四〇	一
二一――二五	六七	四一――四五	一
二六――三〇	一〇八		

これを他の業務と比較して見るに、二十五圓以上三十圓以下が一番多いのは、掃除婦の外に事務員、タイピスト、電話交換手等である。併し外の職業は大概それよりも五圓以下の二十圓から二十五圓までゞある。店員、食堂給仕、案内係、雜役婦等である。

これらの收入關係を見るに、掃除婦は業務の性質が派手ではないけれども、給料に於いて、その初任給からして多いといふ結果が示されてゐる。

第五節　給仕

給仕の仕事といふのは一定してゐない。けれどもまづ、受付、面會取次、或ひは電話掛、お茶の接待、書類の持ち運び、休憩室のお客樣接待などである。

その多くは年齢が若い。そして將來は、事務所では事務員、タイピストに、百貨店ならば一日も早く賣子に、といふ工合に夫々の希望を持つてゐる。それが、どんなに強いあこがれのものであるかは、調べてゐるうちに直ぐ感ずるところである。希望や感想の欄には大概書いてあるのを見てもわかる。

一　年齢――まづ給仕の年齢を調べて見よう。

給仕の年齢			
總數	六一二	三五歳以下	二
一五歳以下	一〇一	四〇〃	一
二〇〃	四七八	四五〃	二
二五〃	二七	五〇〃	一
三〇〃	一		

これによつて見ると、二十歳以下が殆んどその大部分を占めてゐる。その中で十五歳以上が一番多い。總數六百十二人のうち、四百七十八人、すなはち八割に近い。

二　教育程度――更に、その教育程度を調べて見よう。

給仕の教育程度	總數 六一二
尋常小學校	一七一
高等小學校	二七七
補習又は夜間女學校	五三
商業又は實科女學校	三四
高等女學校	四七
特殊技藝學校	三〇

これによると、高等小學校が一番多い。これは卒業生ばかりでなくて、中途退學をも含んでゐる。その次が尋常小學校である。この二つを加へたものが、七割を占める。

その外に、現に夜間女學校や補習科へ行つたり、タイピスト養成所や簿記學校に通ひつゝあるものなどが在るからして、それらの學校も相當の數に上つてゐる。女學校卒業竝びに通學又は半途退學などを含めた總數は百三十二人もある。總數の五分の一に當る。なほそれ以上の學校のものも在るといふわけである。

三　就職の目的――次に就職の目的又は動機について調べて見るに、まづ氣がつくことは學資を得るためにといふのが比較的に多いことである。

給仕の就職目的	總數 五五二
家計補助のため	四二四
學費を得るため	四四
自活のため	一八
嫁入仕度	一六
修養のため	一三
見習、技術習得のため	八
趣味のため	七
貯蓄のため	三
實社會經驗のため	二
職業婦人を希望して	一
其の他	二
特に理由なきもの	一四

四　就職の方法――大體に於いて就職の方法は、親戚知人の紹介が一番多いのである。給仕に於いても、それと異らない。けれどもその次は職業紹介所の手によるものである。これは食堂給仕と店員との場合も然りである。事務員とタイピストは學校の紹介によるものが比較的に多いし、募集廣告は女工と電話交換手とであるといふのを見ても、職業と就職の方法とには關聯してゐるところがあるやうである。

給仕の就職方法	總數 六〇二
親戚知人紹介	三八〇
職業紹介所	八五
學校紹介	六八
募集廣告	五八
直接面談	七
父母兄姉の紹介	二
口入屋の紹介	二

五　勤務時間——給仕の多くは年も若いし、また夜學などに行くものが相當に居るやうである。長い勤務時間では辛いことであらう。いま給仕の勤務時間を調べて見よう。即ち總數六百九人中八時間以上十時間迄が三百三十八人、六時間以上八時間迄が二百二十九人、十時間以上十二時間迄が三十五人、六時間以内が四人、十二時間以上が三人といふことになつてゐる。

六　給料、及びその他の收入——給料について見ると、二十圓から二十五圓までのものが一番多い。その次が五圓上りの三十圓までゞある。一人當りで見ると平均二十一圓九十五錢となる。

更に手當であるが、手當の無い者の方が百人近くも多い。有るもの二百四十一人、その中三圓以下といふのが百十人あつて一番多い。

また、賞與についてみると、無いものに比し有る方が三倍以上も多くて四百四人に上る。その中で一番多いのは、三圓以下の百七十八人といふのである。その次が五圓以下である。

その他の諸收入を加へたる收入總額を見るに、次の如くになる。

給仕の收入總額（一箇月）

總數	五二四	四〇圓以下	三〇
二〇圓以下	一三〇	四五〃	八
二五〃	一五九	五〇〃	四
三〇〃	一二七	五五〃	一
三五〃	六四	六〇〃	一

七　趣味——少し眼先きを更へて、給仕の趣味を見よう。

その多くは讀書であるが、それ以外には、音樂と映畫とが非常に多い。

給仕の趣味（延數）

總數	九七三	手藝	二三
讀書	四〇八	裁縫	九
音樂	一七五	散歩	九
映畫	一六八	運動	八
旅行	九九	其の他	四三
觀劇	三一		

八　希望と感想——給仕の希望で特に目立つものは、早く昇進して一定の事務を爲す樣になりたいと云ふ事である。一日も早く店員として賣場に立ちたいといふもの、又は將來はタイピストになりたいといふもの、等々色々あるけれども要するに地位を早く進めて貰ひ度いといふことである。

給仕の希望

總數	一四一	勤務時間の嚴守	五
地位の昇進	四七	世人又は御客の理解	三
忠實に	三三	仕事を合理的に	三
愉快に	一五	上役の理解	二
仕事を多く	一三	地位の安定	二
客に好感を	九	定つた仕事	一
勤め先の發展	七	設備の改善	一

給仕の希望（例）

1 早く事務員になりたいと思つてゐます。（十八歳、物産會社）
2 タイピストに。（十九歳、電氣工業會社）
3 お子樣用品か書籍の賣場に立ちたいと思ひます。（十七歳、百貨店）
4 仕事の階級に差別をつけぬ事。（十八歳、銀行）
5 行く末はもう少し頭を要する仕事がし度いと思ひます。（十八歳、製紙會社）
6 見込のあるものはどん〳〵引立てゝ戴きたいと思ひます。（十八歳、物産會社）
7 より以上感じのよい給仕。（十五歳、石油會社）
8 强い意志と身を以て自分の仕事を勵みたいと思ふ。（十六歳、銀行）
9 一定の時間にして、終る時は一せいに。（十七歳、物産會社）
10 給仕は給仕としての務めを立派にはたしたい。いつもたのしく働きたい。（十六歳、保險會社）

更に仕事に對する感想について、その一番樂しく思ふことを直接の聲に聞かう。

一番樂しく思ふこと（例）

1 一生けん命に働いて、ほめられた時。（十六歳、製紙會社）
2 お客樣に氣持よく買つて頂く事。（十八歳、百貨店）
3 仕事のドン〳〵片づく時。（十八歳、物産會社）
4 お客樣の多い場合。（十七歳、百貨店）
5 キレイで仲の良い一家の人々の來た時。（十七歳、百貨店）
6 きれいに掃除して皆樣の快い顏を見た時、忙しくて一日中滿足に過ごして頂いた時。（十七歳、電力會社）
7 忙しい思ひをして働いてお給料をいたゞく時。（十八歳、雜誌社）
8 親切に仕事の勞をねぎらはれた時。（十八歳、物産會社）
9 一日をしかられずに氣持よく、すごせた日。（十八歳、銀行）
10 上の方なりに、にこ〳〵とお仕事を頼まれた時。（十七歳、物産會社）
11 お昼の一時間の休み。（十七歳、保險會社）
12 皆樣と共にいたずらをしたりほめられたりする時です。（十七歳、保險會社）
13 表へお使に出る時。（十五歳、機械製造會社）
14 店に居ては食事中、家に居ては三味線のおけいこ。（十七歳、百貨店）

その次には、一番嫌に思ふことの例を取つて見よう。

一番嫌に思ふこと　（例）

1　仕事のない時は却つて苦痛です。（十六歳、銀行）
2　仕事上で失敗した時又は同輩と氣の合はぬ時。（十八歳、雜誌社）
3　自分の仕事を他人に取られる事。（十八歳、銀行）
4　我儘な亂暴な子供の來た時。（十七歳、百貨店）
5　皆様が無理を言つたりなさる時です。（十七歳、保險會社）
6　無理解な社員が小言を云つた時。（十八歳、物産會社）
7　仕事をくどく言ひつけられること　（二十歳、保險會社）
8　行員がいやらしい事を云つたりしたりする事。（十九歳、銀行）
9　人と人との中に立つ時。（十九歳、銀行）
10　いぢめられた場合。（十六歳、印刷所）
11　遠くから子供々々と呼ばれて走つて行く事が一番いやに思ひます。（十八歳、造船會社）
12　上役に叱られた時、書類紛失の時。（十九歳、物産會社）
13　上流のお客様にいやしく思はれる時が一番いやに思ふ。（十六歳、保險會社）
14　憂鬱な日。（十六歳、製紙會社）
15　おなかのすいたとき。（十六歳、電線會社）
16　歸へりしなに用を言付けられる時。（十五歳、機械製造會社）

第六節　食堂給仕

こゝにいふ食堂給仕とは、殆んど百貨店の食堂給仕である。三越、白木屋、松坂屋、松屋、ほていや等の本支店を含んでゐるのである。併しこれ以外にも、二幸、精養軒、地下鐵、カフエー・ライオンや、東京劇場、新富座から、三共、東京堂、主婦の友社及び日本勸業銀行等がその主なるものである。

これら食堂に働く小鳩達の年齢、學校、勤務方法及び初任給、給料、昇給などを特に詳細に調べてみよう。

一　年齢――食堂給仕の年齢は大體想像されるところで、十五歳以上二十歳以下が一番多く、總數七百六十人のうち五百九十九人を占めてゐる。けれどもまた三十歳以上のものも尙ほ二十九人からある。この樣に年を取つたものゝ多くは、監督であらうと思はれるのである。

次に、各年齢別にその人數を調べてみよう。

食堂給仕の年齢

總數	七六〇
一五歳以下	七三
二〇〃	五九九
二五〃	五九
三〇〃	一五

三五歳以下	八
四〇〃	二
四五〃	一
五〇歳以下	一
五〇超過	二

二　戸主又は夫の職業――食堂給仕の多くは、あまり家庭が裕福なものはないであらう。あゝして食堂の中にマメマメしく立ち働いてゐる彼女らの姿を見てゐると、何となくその家庭の上に思ひを馳せざるを得ない。彼女らの家庭の狀態を十分に知るよすがも無いけれど、それを窺ふ一端とも思つて左に戸主又は夫の職業を調べて見る。

食堂給仕の戸主又は夫の職業

	總數	七〇六
工業		一八九
	土木建築業	四七
	製材、建具職等	三七
	製紙印刷業	二五
	機械器具製造業	二五
	其の他	五五
商業		一七三
	商業的職業	一四〇
	接客業	三三
公務、自由業		一五八
	書記的職業	八四
	官公吏、雇傭人	四四
	其の他	三〇
交通業		二五
農業		八
水産業		三
其の他の有業者		一〇
無業		一四〇

このやうに、産業別に見ると工業が一番多い。その中では土木建築業に屬するもの、例へば大工職、請負業の如きものである。

けれども職業別に全體を見渡すならば、やはり商業的職業のもの、すなはち日用品販賣店の如きものが最も多く、食堂給仕總數七百六人の中、百四十人を占めてゐるのである。その次が書記的職業、これは一般の會社、銀行などの勤め人で八十七人を占め、次が土木建築業者、官公吏又は雇傭人の順位となつてゐる。

三　教育程度――次に食堂給仕の教育程度を一覽して見よう。

食堂給仕の教育程度

	總數	七五九
全然學歴なきもの		二
尋常小學校		二四〇
高等小學校		四三〇
補習及夜間女學校		二
高等及實科女學校		二三
高等女學校		五〇
特殊技藝學校		一一
大學、專門學校		一

これによると高等小學校程度が、群を抜いてゐる。總數七百五十九人の中、四百三十人を占めてゐる。その次が尋常小學校の二百四十人である。女學校程度のものは、七十五人に餘り、大學專門學校のもの、尙一人ある。

四　就職の目的――次に就職の目的を見るに、その大半は家計補助であるといふ點は他と異ならない。たゞ一般給仕と比較して見るに、少し多いやうである。

左に就職の目的について、食堂給仕と一般給仕とを比較して見よう。

給仕の就職目的

	一般給仕	食堂給仕
總數	五五二	六八六
家計補助のため	四二四	五七一
自活のため	一八	三四
嫁入仕度	一六	一七
貯蓄するため	三	六
子女養育のため	—	三
弟妹教育のため	—	一
事務見習のため	八	一一
職業婦人を希望して	一	二
學費を得るため	四四	二
修養のため	一三	九
趣味のため	七	四
實社會經驗のため	二	三
將來の準備のため	一	九
其の他	二	一
特に理由なきもの	一四	一四

五　就職の方法——更に就職の方法を見よう。どんな手蔓で百貨店等の食堂給仕として就職するのだらうか。

食堂給仕の就職方法

總數	七二八	
親戚知人の紹介	二九五	直接面談　一五
職業紹介所	二〇〇	前勤務先紹介　五
學校の紹介	一二九	口入屋紹介　三
募集廣告	八〇	父母兄姉の紹介　一

六　初任給——次に食堂給仕の初任給を調べて見よう。

食堂給仕の初任給

總數	七一八	三五圓以下	一二
二〇圓以下	一一〇	四〇〃	—
二五〃	五五四	四五〃	三
三〇〃	三八	五〇〃	一

これによると、二十圓から二十五圓位までが一番多いのである。

七　給料及び收入總額——食堂給仕の現在給料を見るに、最も多いところは、やはり二十圓から二十五圓までの處である。總數七百十六人のうち、三百七十七人を占めその次が三十圓以下の二百二人である。これを一人當り平均に見ると、二十三圓九十一錢となる。

食堂給仕の給料

總數	七一六	三〇圓以下	二〇二
一〇圓以下	一三	三五〃	一八
一五〃	二九	四〇〃	一一
二〇〃	六二	四五〃	二
二五〃	三七七	五〇〃	二

更に手當を見ると、相當に多額のものが在るが、これはカフエーに勤める女給を多少含んでゐるからである。

食堂給仕の手當

總數	二八九	一五圓以下	七
一圓以下	七三	二〇〃	五
三〃	一二三	二五〃	五
五〃	三九	三〇〃	二
七〃	二三	三〇超過	二
一〇〃	一一		

更に賞與を見よう。

食堂給仕の賞與

總數	四九三	七圓以下	七三
一圓以下	七一	一〇〃	二五
三〃	一九六	一五〃	三
五〃	一二〇	二〇〃	五

給料、手當、賞與、及びその他の收入を加へたる收入總額を見るに、

食堂給仕の收入總額

總數	七四四	六五圓以下	一
二〇圓以下	四〇	七〇〃	二
二五〃	一七一	七五〃	二
三〇〃	三一七	八〇〃	一一
三五〃	一一三	八五〃	一
四〇〃	三六	九〇〃	二
四五〃	二一	九五〃	一
五〇〃	八	一〇〇〃	二
五五〃	六	一〇〇〃超過	九
六〇〃	四		

これを見ると、なかなか高額の者が多くある。これは前にも述べたように、二、三のカフエーを含んでゐるせいである。

八　支　出

（一）被服費――百貨店の食堂給仕ならば一定の制服があるからして、勤務用の被服費は要らない。ただ衣裳自辨又は相當な衣服を要求せられる場合には、なかなか大きな支出となるであらう。

この調査の大部分は百貨店の食堂給仕であるが、幾らかカフエーの女給を含んでゐるために、隨分被服費がつり上げられてゐるわけであるが、一人平均で見ると一ケ月五圓五十一錢となつてゐる。平均給料二十三圓九十一錢に對しては、二割三分に當る。

（二）食費及び住居費――大方は自宅から通ふものであるからして、別に食費又は住居費として拂ふものは少い。

食堂給仕の食費及び住居費

總數	二一七	三五圓以下	三
一〇圓以下	一一七	四〇〃	二
一五〃	五七	四五〃	一
二〇〃	二九	五〇〃	二
二五〃	二	六〇〃	一
三〇〃	三		

食費及び住居費を拂ふものは二百十七人であるが、これを拂はないものは二百七十二人である。

（三）家計補助――家計の補助を幾分にでもしたいといふ願ひから勤めに出るのが多いのであるから、家計補助をしないといふ者は僅かに二百五十人であるに反して、家計補助をなすといふものは五百二人に上る。正に二倍である。今その金額を見るに、

食堂給仕の家計補助

總數	五〇二	三〇圓以下	一五
五圓以下	六九	三五〃	三
一〇〃	一三九	四〇〃	三
一五〃	一二四	四五〃	一
二〇〃	一〇八	五〇〃	二
二五〃	三八	六〇〃	一

大體に於いて、五圓から二十圓位までを家計補助として出してゐるわけである。

（四）交通費――交通費を支拂はないものは百五人であるに對して、拂ふものは六百五十二人もある。すなはち大體に於いて交通費を支拂ふものと見るべきである。

その額は三圓から五圓位までが一番多い。その數は三百五十三人である。

（五）修養費――更に修養費として擧げられたものを見るに、三圓以下が多いのであるが、一人平均では一圓六十四錢となつてゐる。給料の平均二十三圓九十一錢に對しては七分近くに當る。

（六）　娯樂費――娯樂費を見積れるものは五百三十五人に餘る。これは娯樂費を持たないもの二百十七人に比較すると可成り多い大體に於いて娯樂費を出すものと思はれる。その額はやはり一圓から三圓までが一番多い。一人平均では一圓八十六錢に當り給料平均に對しては八分近くに當る。

（七）　貯蓄――最後に貯蓄をば一覽して見よう

食堂給仕の貯蓄額

總數	五四〇		
一圓以下	一八	一〇圓以下	一一
三〃	三一六	一五〃	三八
五〃	八四	二〇〃	五
七〃	六三	二五〃	三
		三〇〃	二

これを一人平均で見ると、三圓五十一錢に當り、給料に對しては一割五分に餘るのである。

第七節　エレベーターガール

空へ空へと延び行く近代建築の急增につれて、スピード時代に適はしくエレベーターの設置となつた。百貨店は云ふに及ばず、凡百の事務所、ビルディング等では特に客の應待に、より良き好感を與へるために競つて婦人採用となり、こゝにエレベーターガールの出現となつたわけである。

エレベーターガールを見る者にとつて、まづ氣になることは、かう云ふ職業は極めて危險であらうといふことだ。けれどもこれは決して危險なものではないさうだし、またそれ程に技術を要しないものであるらしい。ただ問題は、急激な垂直昇降が身體に影響するであらうといふことである。けれども實際に於いては、さう大したことはないらしい。以下さういふ問題を念頭に置きつゝ、順次に年齡、教育程度、就業時間、公休日、健康狀態、勤續年限、給料、休日利用法、仕事に對する希望、並びに感想等を調べて見ようと思ふ。

一　年齡――エレベーターガールは幾歲位だらうか。と思つて調べて見るに、やはり二十歲前、然も殆んど全部が未婚者である。すなはち、總數百六人の中、十五歲以下の者は僅かに一人であるが、二十歲以下の者九十三人、二十五歲以下のものが十二人であつて、それ以上の者は無い。

二　教育程度――エレベーターガールといつても、それ程特別な技術を要するものではないからして、他の事務員や店員と大體に於いて似てゐるのである。從つて教育程度を見ても、特別に變つたところは無い。やはり高等小學校程度の者が一番多くて、全體の約半分を占めてゐる。また更にその半分位が高等女學校といふことになつてゐる。

エレベーターガールの教育程度

總數	一〇六	商業及び實科女學校	一〇
尋常小學校	一六	高等女學校	二二
高等小學校	五〇	特殊技藝學校	八

三　就業時間――次にエレベーターガールの就業時間について見るに一番多いのは九時間から十時間迄の者である。

エレベーターガールの健康狀態

	總數	八六
影響なし	四八	
精神の疲勞	三	
身體の疲勞	二〇	
脚氣	二	
眼の疲勞	二	
其の他	一	

これによると、まづ大體に於いて影響は無いといふのである。總數の中、半分以上を占めてゐる。しかし、何分にも人混みの中で、小さい室に閉ぢこもつたまゝ、上下に急激に昇降するのであるからして、決して他の業務に比して樂とは云ぼす影響を見よう。

エレベーターガールの就業時間

	總數	一〇四
四時間以下	一	
五〃	一七	
六〃	一	
七〃	一	
八時間以下	一	
九〃	二一	
一〇〃	四〇	
一一〃	一九	
一二〃	三	

四　公休日——公休日は一箇月に二日が一番多い。その次が四日である。すなはち、總數百六人の中、二日が五十七人、三日が六人、四日が三十一人、五日が十二人となつてゐる。

五　健康狀態——次に、注意されてゐる仕事の身心に及ぼす影響を見よう。

へない。身心に及ぼす影響も相當にあることであらう。この邊のことについては、後に仕事に對する希望や感想の項を參照されたい。

六　勤續年限——この業務は最近の發達であるからして、勤續年限はさう古いわけはないが、一年未滿がやはり一番多い。その次が二年未滿である。

そこで、エレベーターガールの勤續年限について一覽してみると、總數百六人の中、一年未滿の者四十五人、二年未滿の者四十一人、三年未滿の者十四人、五年未滿の者六人となつてゐる。これによつてみると、五年近くもエレベーターガールとして勤務してゐるものがあるといふことは、一寸注意すべきことであらう。

エレベーターガールの直接の聲を聞くと、彼女らは出來るならば普通の事務員や店員になりたい。早くなりたいと願つてゐる。

七　給料及び收入總額——彼女らの給料は、まづ三十圓未滿。大體に二十圓から三十圓迄である。

一人平均では、二十六圓六十六錢となつてゐる。

エレベーターガールの給料

	總數	一〇四
一五圓以下	三	
二〇〃	六	
二五〃	三三	
三〇圓以下	四八	
三五〃	五	
四〇〃	九	

この一人平均額を見ると、一般店員の平均額二十八圓九十一錢よりも少くなつてゐる。

更に、給料以外の諸收入を加へたものを見るに

エレベーターガールの收入總額

總數	八七	三五圓以下	三九
二〇圓以下	一	四〇〃	一二
二五〃	九	四五〃	七
三〇〃	一八	五〇〃	一

これによると、三十五圓未滿が一番多い。

八　休日利用法——他の業務に於いては、あまり休日利用法は見なかつたのであるから、こゝでエレベーターガールが家庭へ歸つてから、休日には何をして暮らすのであらうかを調べてみよう。

次の表によつてみると、まづ一番多いのは家事手傳である。純然たる家庭の人となるのである。その次は映畫見物である。尖端嬢の多くは、やはりシネマ・フアンだ。

エレベーターガールの休日利用法

總數	一四〇	音樂	二
家事手傳	四五	私用	一
映畫見物	二〇	訪問	一
讀書	一九	觀劇	一
裁縫	一八	生花	一
洗濯	一二	娯樂	一
散歩	一二	其の他	五
諸稽古	二		

九　仕事に對する希望——次にエレベーターガールの、仕事に對して抱く希望を述べてみよう。

エレベーターガールの仕事に對する希望

總數	三一	忠實に	三
世人又は御客の理解	八	地位の昇進	三
成績を擧げること	五	設備の改善	一
客に好感を	五	勤務時間の嚴守	一
愉快に	四	人格を認められたい	一

これによると、一番多いのが世人又はお客の理解を求めることで、その次には仕事の上で忠實に、サービスを良くしたいといふ念願である。

エベレーターガールの仕事に對する希望（例）

1　當店側の御客様本位（笑顔でむかへて感謝で送る）を常に守りお客心理に添ふよう心掛けて居ります。（十七歳、百貨店）

2　自分の係る無事に果せますように。（十八歳、百貨店）

3　事故の起らぬ様希望致します。（十九歳、百貨店）

4　毎日一時間毎に、無事にと祈りつゝ一日を送ります。（二十歳、百貨店）

5　自身の人格の向上、接客方法の熟練。（十九歳、百貨店）

6　私達の職業を世の中の人が皆理解を持つてほしいと思ひます。（十九歳、百貨店）

7　希望といふ程の事も考へませんが皆さんにエレベーターに對する常識を持つていたゞき度いと思つてをります。（二〇歳、建物會社）

8　世間の人から誤解されやすい私等の職業を眞實な態度で凡ての人に接して行くならやがては理解される事と信じます。（十七歳、百貨店）

9　エレベーターの中の空氣を良くしたい事。（二十一歳、保險會社）

10　十時間制度。（十七歳、鐵道會社）

11　忙しくてもいゝから事務をとり度い。（十八歳、保險會社）

12　實場。（十八歳、百貨店）

13　他の店員と異り、交代に時間有り、讀書に便あり。（十八歳、百貨店）

14　目的の無い仕事に希望は御座いません。（十八歳、百貨店）

一〇　仕事に對する感想——仕事に對する感想を分けて、一番樂しく思ふことゝ、一番嫌に思ふことゝの二つとする。

まづその前者について述べて見よう。

一番樂しく思ふこと

總數	四九	休日又は在宅	四
世人又は御客の理解	一五	歸宅のとき	三
間違なく完成	八	多忙のとき	二
身體健康	五	同僚間仲良く	二
好きな仕事	四	機械良好	一
暇又は休息のとき	四	勤め先の發展	一

これによつて見ると、やはり世人又は御客の理解ある態度をば一番に樂しく思ふやうである。

一番樂しく思ふこと（例）

1　物のわかつた御客様にあつた時。（十九歳、百貨店）

2　お客様にほめれた時。（十九歳、百貨店）

3　お客様が大ぜいのる事。（十七歳、借ビル）

4　御客様が氣持ち良く送迎した時。（二十一歳、百貨店）

5　お客の有る時。（二十歳、百貨店）

6　自分の努力がむくいられて顧客に御滿足をあたへられた時。（十七歳、百貨店）

7　お客様にお店の事業をほめられる時。（十九歳、百貨店）

8　利用者が互に譲り合つて乘りたるとき。（二十歳、百貨店）

9　いそがしい時お客様にやさしいお言葉をいたゞく事です。（十九歳、百貨店）

10　事故もなく自然心にわだかまりのない時。（二十一歳、百貨店）
11　おひるの休みに屋上で友達と遊ぶ事。（十七歳、建物會社）

次に、仕事に對する感想の第二として、一番嫌に思ふことを掲げて見よう。

一番嫌に思ふこと	總數	五六
世人又は御客の無理解	二九	
機械の故障	八	
勤務時間の延長	五	
叱られた時	四	
病氣又は身體故障	三	
豫定通り捗らぬこと	二	
仕事が無いこと	二	
上役の無理解	二	
遲刻	一	

これによつて見ても、一番嫌に思ふことはやはり世人又はお客の理解無いことである。次に、また彼女らの直接の聲を聞いてみよう。

一番嫌に思ふこと（例）

1　事故の時、侮辱、不良。（十九歳、百貨店）
2　聲の出ない時。（二十歳、百貨店）
3　お客の無き時。（二十歳、百貨店）
4　エレベーターの故障の時。（二十一歳、保險會社）
5　頭が昂奮して、まごつき出す時。（十八歳、百貨店）
6　お客樣に事故が有る時。（十六歳、百貨店）
7　一般の人からエレベーター係を輕視される事。（廿歳、百貨店）
8　お客より無理なるお小言を云はれた時。（二十歳、百貨店）
9　眠くなる時、嫌ひな客。（二十一歳、建築會社）
10　同情心と常識のかけてゐる人にしかられる時。（二十歳、建築會社）
11　婦人（多く女學生）にけいべつした眼で見られること。（二十歳、百貨店）
12　お客樣があまり利己主義な事です。（十九歳、百貨店）
13　氣持の良くない時、お客樣にばかにされた時。（十七歳、百貨店）
14　お客樣から、いやな（とうしよ）のくる事。（十八歳、百貨店）
15　エレベーターの中でいたずらされるのが一番いやです。（十八歳、百貨店）
16　へんなお客が乘つた時。（十八歳、百貨店）
17　勤務時間が永い事。（十八歳、建築會社）
18　氣分のわるい時。（二十一歳、百貨店）

第四編　雇主側より觀たる職業婦人

第一章　採用方法並びに勤務關係

吾々は以上を以て帝都に於ける産業婦人の實相を究明して殆んど剩すところがないと信ずる。唯茲に殘された問題は是等の女性を使用する雇主が職業婦人に對して如何なる見解を有つてゐるか――換言すれば彼等は職業婦人に對して如何なる態度を以つて臨んでゐるかといふ點を檢討することにある。

仍ち本編に於いては、雇主が如何なる方法で彼女等を採用し、如何に之を遇し、又如何なる職業婦人觀を抱懷してゐるか等に就いて、回答のあつた市内八百十八會社工場の事實に基き若干の考察をめぐらさうとするものである。

種別	回答數	種別	回答數
總數	八八	飲食料品製造業	二四
農業	五	土木建築ニ關スル業	二五
水産業	六	瓦斯電氣水道業	一〇
鑛業	三	其ノ他ノ工業	三二
採鑛業	三	商店	八
工業	三	百貨店業	一四
繊維工業	元	其ノ他ノ物品販賣業	二五
金屬工業	四	媒介融通保證周旋業	一六
機械器具製造業	七	物品貸貸業	二三
船舶運搬業用具製造業	七	娯樂興行ニ關スル業	二
精巧工業	六	接客ニ關スル業	九
化學工業	元	其ノ他ノ商業	三
紡織業	四	交通業	二
被服工業	一	公務自由業	二
紙印刷業	九	醫療	二
皮革、骨、羽毛類製造業	二	其ノ他ノ産業	一
木竹草莚類製品ニ關スル工業	五		

而して右の會社工場の業態は上掲統計表の如く商業三百八十三、工業三百七十二で殆んど相伯仲し、其の他交通業の三十を除いては特筆すべきものがない。

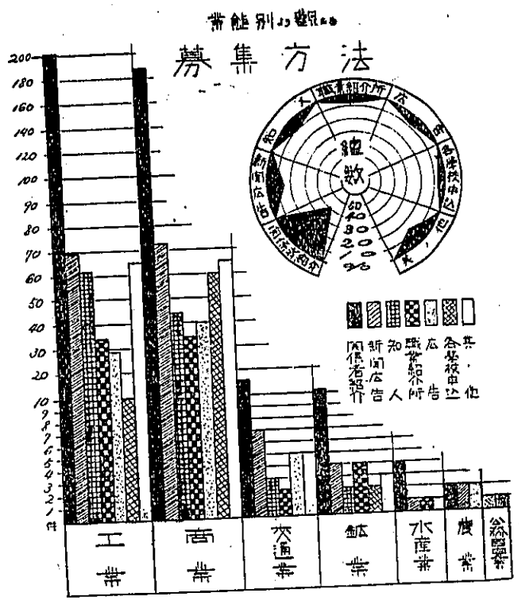
又前記八百十八會社工場が使用する職業婦人の總數は一萬七千四百十三人であつて女工の四千八百九十一人を筆頭に事務員の四千七百二十五人之に次ぎ、以下店員三千八百九十九人、タイピスト九百四十三人、

種別	總數	事務員	店員	タイピスト	電話交換手	給仕	女工	其ノ他
總數	一七、四二三	四、七三五	三、八六九	九四三	七、四八四	七九二	四、八二一	一、四三一
農業	三五	一	一	八	六	一	一	一
水産業	一、一五六	二六	一	二六	元	元	一	一七
工業	六、四二六	五五三	六一	二五四	一八〇	一九二	四、七四〇	五一八
鑛業	三、三六	一七九	一七	吾〇	二五	三七	三〇三	四四
機械器具製造裝置業	六四八	一七七	七	三三	二元	三七	九四七	一三七
化學工業	一、二六	一二一	一	三五	三三	三五	一六六	三六
紙工業	一、八四〇	一二一	一	三七	三六	三九	一二五	一三
印刷業	一、一八九	一二六	一	四二	四九	元九	一四〇三	四八
瓦斯電氣水道業	一三〇	一三	一	三五	三四	元九	一六七	二五四
土木建築ニ關スル工業	一、八九一	四二五	三八四	元元	一二〇	三六一	一四〇三	二五七
商業	一〇、四三五	四、〇元六	三、八四四	元元	一二五	三五〇	一六二	一三五
百貨店	四、元六一	六四六	三、六一〇	三三	一九元	一三五	一六二	一三四
其ノ他ノ物品販賣業	一、三二一	元九	二〇〇	一四	三三	四三	一六二	四七
介周旋業	二六一	八一	六	三二	一四	三二	一六二	一三
金融保險業	三、九三二	二八九	一	元元	一八〇	元元	四〇四	一九一
媒介業	三三	五二	八	三五	二四	二四	八五	三五
其ノ他ノ交通業	一七	二	一	吾	一	一	四	一六

の六百四十八人等、總數六千四百二十六人を占める工業が第二位に當り、其の他は數に於いては殆んど數ふるに足らない。

第一節　募集方法

婦人の街頭進出が際立つて著しくなつた結果、就職競爭の激しさは彼女等の間にも現はれるに至つた。從つて之れを雇主側から見れば極めて容易に募集が出來る場合が多い。今、回答を得た會社、工場の募集方法に就いて之を見ると、公募に依らないものが多分に含まれて居る。即ち一千四十六件の中で最多數を占めて居るものは關係者紹介の四百二十一件で、之に知人紹介の百十一件を合すれば五百三十二件となり、全體の半數以上を占める。是等は何れも新聞廣告其の他の



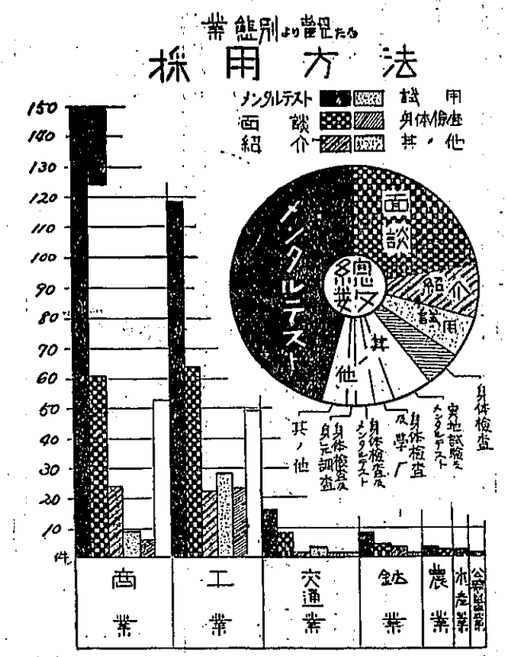
方法のやうに雇主が態々廣く一般から募集するのでなく、總て内部的に行はれるものである。之は近時財界不況の影響を受け經費の節減を計る一方、如何にしても職にありつかうとして傳手をたどつて運動する者が多い爲め勢ひ公募の必要を認めない樣になつたものであらう。特別な人材を必要とする場合でない限り、態々費用をかけて見ず識らずの人を採用するより、少しでも關係のある者の紹介に依る方が雇主側としても安心であり且樂な方法であると云へよう。

關係者の紹介に次ぐものは新聞廣告の百五十五件で、公募方法中の首位を占めて居り、新聞以外の廣告では職業紹介所、學校申込などが伯仲の狀態にある。

其の他の百三十七件は緣故者、或ひは隨時申込者中より採用するものである。

第二節　採用方法

就職戰線に於いて彼女等が如何なる方法に依りその職を克ち得るか、又語を換ふれば雇主は如何にして此の群り來る婦人大衆を篩にかけるか？　と言ふに矢張メンタルテストのみのものが一番多い。即ち採用方法六百八十七件の中三百二十四件で四割七分に當り、其の次が面談の百三十九件で此の二つを合すれば優に全體の半數以上を占めて居るが、之は形式的採用方法が廢されて簡單で容易に適性を考査する方法が工夫せらるゝに至つた爲めであらう。

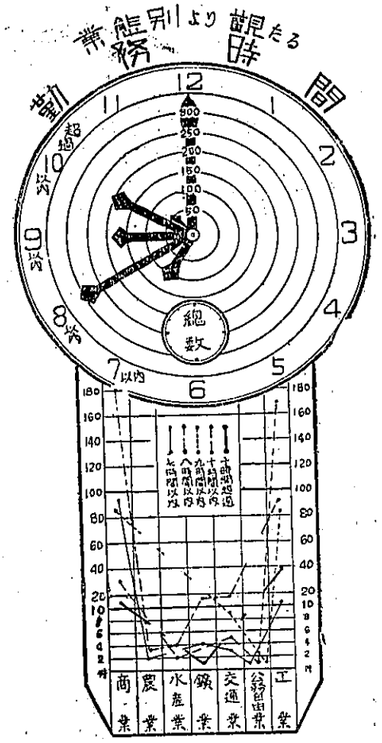


右の外では紹介その儘卽ち紹介者の推薦狀等に基き採用するもの、或る期間試用するもの、身體檢査に依るもの、以上の各種方法を併用するもの等である。

第三節　勤務時間

勤務時間で一般的なのは八時間以内の三百十四件で、次が十時間以内の二百八件、九時間以内の百八十一件、七時間以内百十七件、十時間を超ゆるものが五十六件といふ順となり、更に之を各業態別に就いて觀ると工業の中では十時間以内が最多數で、工業の總數三百九十七件中百六十九件で約五割を占めて居る。之は工場が大部分を占めて居る爲めであり、而もその大部分が紙工業、印刷業であるからである。

商業の方は大部分會社である關係上八時間以内が一番多く、十時間を超ゆるものゝ割合は工業よりも少い。併し工業に



在つても工場法に依つて、女工は十一時間就業が普通の限度である爲め十時間を超ゆる中でも十一時間以下が多く、十一時間を超ゆるものは、數に於いて寧ろ商業が多い。尙就業時間は多く午前八時前後で終業は午後四時乃至五時であるが仕事の性質上夜業又は普通勤務が夜間に亘るものもある。

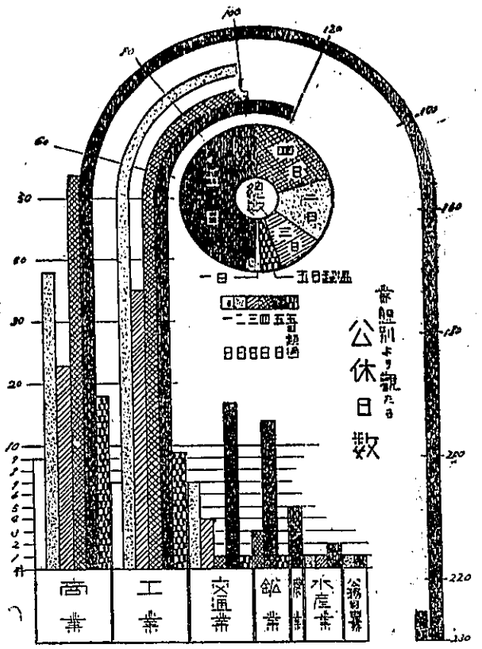
第四節　休憩時間

食後の少憩或ひは仕事に張りつめた心を一時弛めて談笑の裡に頭腦を休める事は全く解放されたとは言ふを得ないけれども、彼女等の勤務先に於ける慰安の一つであつて、適當の休憩時間はまた雇主側に取つても能率增進上必要なことゝ言へやう。

一番多いのは四十五分超過一時間以下の四百三十八件で、之に次ぐのが四十五分以下の百四十九件である。其の中工業が九十三件、商業が五十三件で工業の方が多いが、工場法の規定では一日の就業時間が六時間を超ゆる時は、少くとも三十分の休憩時間を設くることになつて居り、本調査に於いて工業には六時間以下の勤務時間はないのであるから、工場に於いては總て三十分以上の休憩時間があるものと斷定し得るのである。接客業、興行に關する業、交通業等業務の性質上勞働時間が長く且つ相當骨の折れるものにあつては休憩時間が長時間乃至は適宜交替等があり、時間の一定しないものもある。

第五節　公休日及び休暇

毎日の勤務から逃れてゆる〳〵と羽をのばして休むことが出來る日が、月に何日あるであらうか。大體に於いては週に一回のものが多い。即ち總數八百九件の中五日が三百九十三件、四日が百六十件で之は本調査の對象が比較的規模大なる會社、銀行、工場であるので日曜、祭日を休日として居る爲めである。之を業態別に見ると商業に於いては五日（二百三十五件）が過半數を占めて居り、工業に就いても亦五日、四日が多い。その次では二日が比較的目立つ。之は工場が多い關係で工場法により保護職工の休日は最少限度月二回といふ爲めであらう。

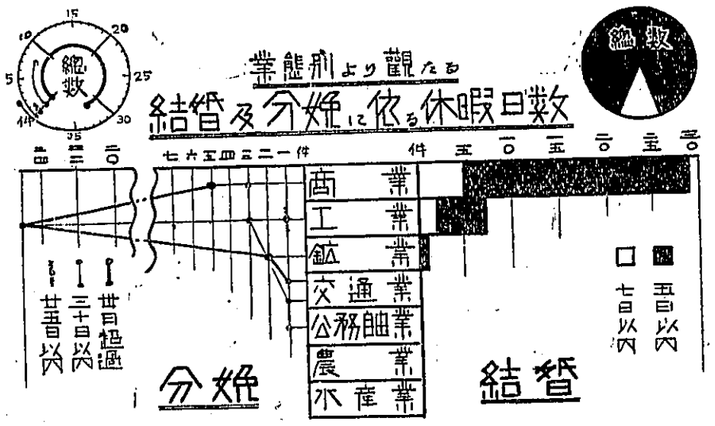


公休日の外に一年を通じて休暇が幾日あるか。

之を一般の場合と結婚、分娩、忌引等臨時事故發生の場合の休暇の樣な特別のものとに分けて觀察する。

一般の休暇日數は五日以下（百五十三件）が最多數を占め、五日乃至七日が百四十八件、七日乃至十日が百二十四件である。其の多くは暑中休暇であるが、之は事務員に限られ、而も勤務一箇年以上のものとか缺勤なきものとかの條件が付いてゐるものが多い。休暇なき所が二百三十四箇所からあるが、之は概して工場に多い。

特別の休暇の主なるものは結婚、分娩、及び忌引等である。彼女達の多くは結婚前を家計補助等の爲めに働くのであるから、相當貯蓄が出來、然るべき配偶者が見つかれば退職してしまふといふのが通例である。會社、工場に於いても獨身者の方が概して使い易いことから、結婚した後なほ引續き勤務させるといふ處は少い。從つて結婚に對して特に休暇を與へる事にして居るのは僅かに四十四件、全然無いのが三百二十三件といふ狀態である。



分娩に依る休暇も、結婚の場合と同じく、特に規定を設けない方が多く、二百九十七件を算し、定あるものは僅かに四十二件である。その中三十日を超ゆるものが三十三件、二十六日以上三十日以下が八件、二十五日以下が一件と言ふ狀態で、而も大部分は工場である。

尙女工に就いては工場法で産後六週間を經過しない者を就業させる事が出來ず、工場法施行規則によつて工業主は四週間以内に出産することあるべき者が休業を求めた時は其の者を就業させる事が出來ず、且又、健康保險法によつて、分娩費、出産手當を支給される等保護規定が設けられてある。

忌引に依る休暇を規定してあるものは百九十九件で、五日以下が百二十七件、七日以下が六十六件、十日以下が五件、十日を超過するものが一件であるが、親等の如何によつて長短夫々の區別があることは勿論である。死は人生最大の不幸であり、且忌服は人道上當然のことであるから、これを全然認めないと言ふことは有り得ないことであるが、たゞ定まつたものがないと言ふに過ぎないのではなからうか。